



第2次嘉麻市公共施設等適正化基本方針 (案)

概要版

公共施設等適正化基本方針とは

高度経済成長期から急激な人口増加や住民のニーズなどに応じて、庁舎・教育施設・公営住宅・図書館などの多くの「公共施設」や道路・上下水道などに代表される「インフラ資産」も含めた数多くの公共施設整備が進められてきました。その当時建築、建設された公共施設等の築年数は30年以上経過しています。

さらに、全国の自治体は、過去に建設された公共施設等がこれから大量更新の時期を迎えることとなりますが、老朽化する公共施設等に関わる建て替えや改修などの更新費用も増加することが予想されます。

本市においても、早急に公共施設等の全体状況を把握し、長期的な視点で更新、統廃合、長寿命化などを計画的に行うことで財政負担を軽減し平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現することが必要とされています。

そのため、保有する公共施設等の状況、更新費用の見込みと基本的な方向性を示した「公共施設等総合管理計画」の策定要請に基づき、平成27年度に「嘉麻市公共施設等適正化基本方針」(以下、「本方針」)を策定しました。

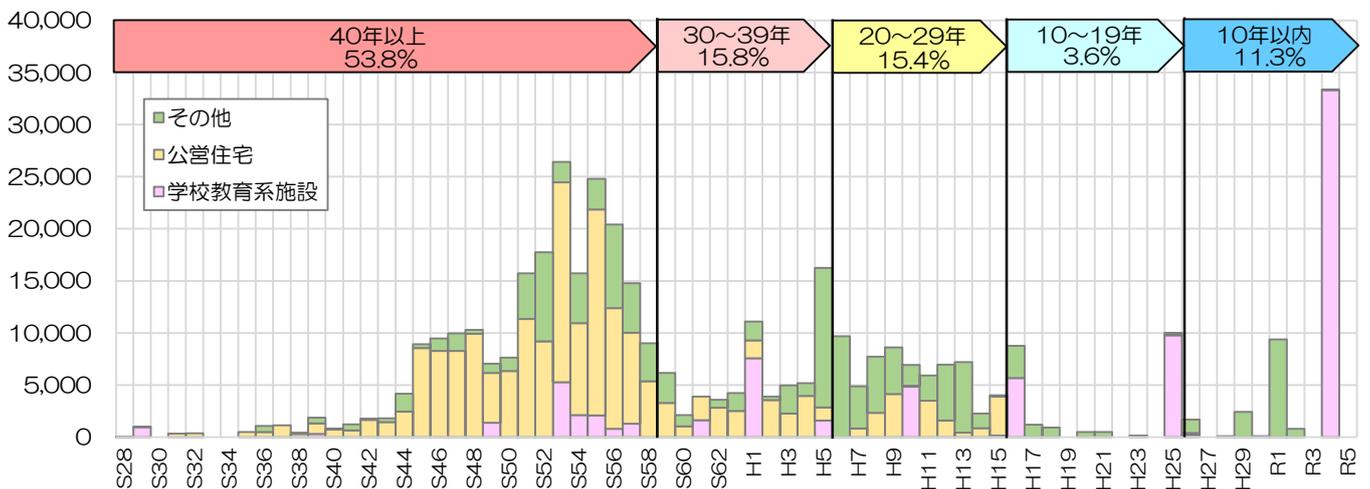
この度、方針期間10年が満了したことから今までの方針を第1次に改め、これまでの取組や市を取り巻く状況の変化を把握し、反映させて、新たに取り組みを進めるために本方針を第2次として策定します。

I. 対象施設

公共施設

ページNo. 7-3~4

市が保有している公共施設の延床面積は計409,806㎡です。平成18年3月に1市3町で合併し、旧市町で建設した公共施設を引き継いでおり、合併して20年が経過した現在においても多くの公共施設を保有しています。



インフラ資産

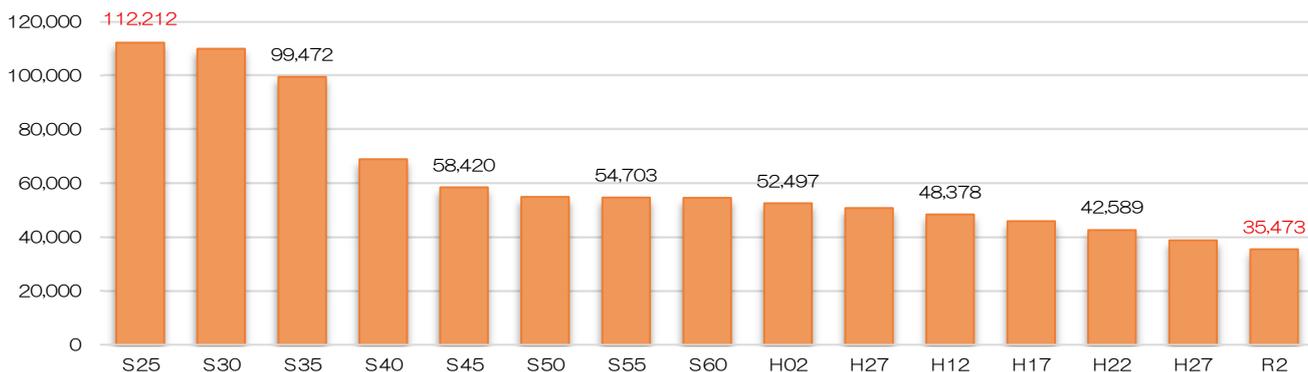
インフラ資産としては、道路、橋梁、上水道を対象としています。

種別	分類	施設数					
道路	1級(幹線)市道	実延長計	73,344.6m	面積	669,141.3㎡		
	2級(幹線)市道	実延長計	62,544.8m	面積	436,027.7㎡		
	その他の市道	実延長計	386,005.1m	面積	1,974,145.4㎡		
	自転車歩行者道	実延長計	34,414.2m	面積	105,245.2㎡		
橋梁	—	実延長計	4,004.9m	面積	26,070.1㎡		
上水道	—	導水管計	4,783m	送水管計	12,224m	配水管計	380,628m

II. 人口動向と財政状況

人口動向

本市の人口総数は70年間で約7万6千人、約68%が減少しています。



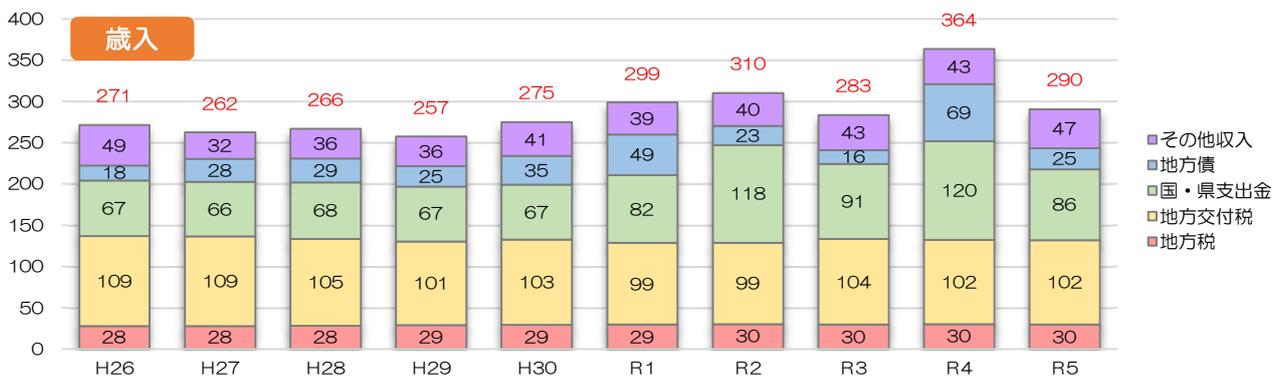
将来の人口推計においては、今後も少子高齢化は進展し、市の人口構成が大幅に変化していくことになります。



嘉麻市の財政状況

市税等の自主財源が少なく、国・県からの地方交付税や補助金等に依存した弱い財政構造であることが分かります。

(単位：億円)



義務的経費（人件費、扶助費(福祉に関する経費等)及び公債費(地方債の返済金)）の割合が高く、硬直した財政構造となっています。

(単位：億円)



III. 更新等に係る経費（対策の効果額）

公共施設

公共施設の更新等に係る経費の見込み額を、単純更新型と長寿命化型を比較し、対策の効果額を試算しました。

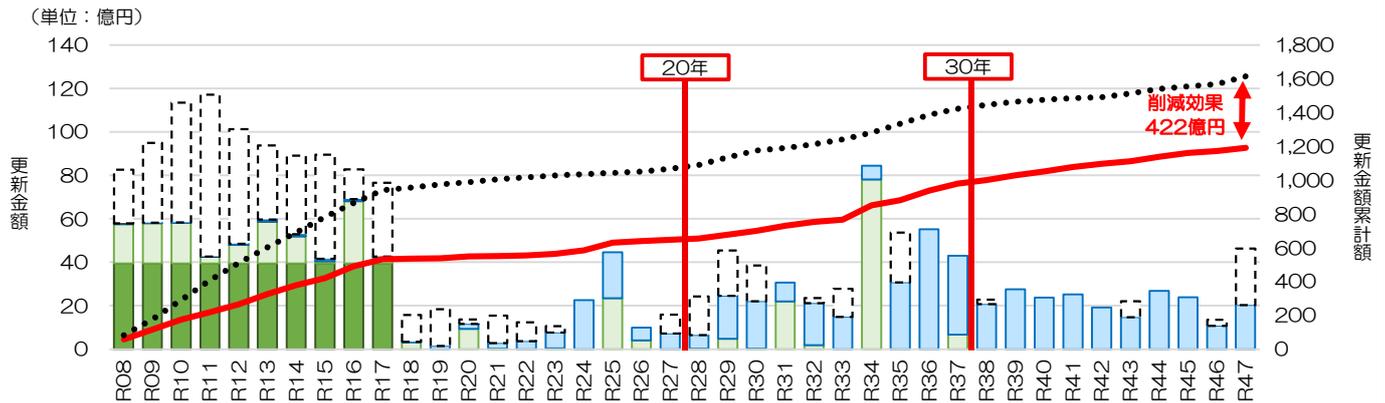
単純更新型…施設の耐用年数到来の翌年度に更新金額を計上

長寿命化型…築 30 年目に大規模改修、築 60 年目に建替え工事を実施する

（※その他詳しい試算条件については本編をご覧ください。）

従来型と長寿命化型を比較すると、令和 47 年度時点で約 **422 億円**の削減効果が見込まれます。

施設ごとに目標耐用年数を設定し大規模改修など適切な長寿命化対策を実施することにより、安全に施設の長期使用が可能になります。また、中長期的な更新金額の削減が見込まれ、さらに、複合化・集約化・統廃合を行うことで施設保有量を削減し、施設のランニングコスト（維持管理経費）の圧縮も期待されます。

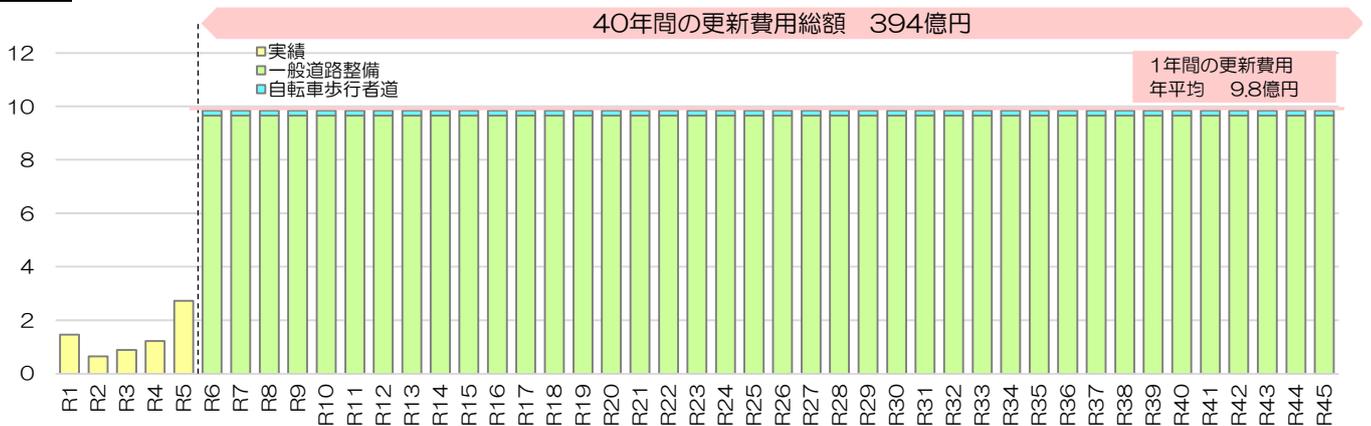


インフラ資産（道路、上水道）

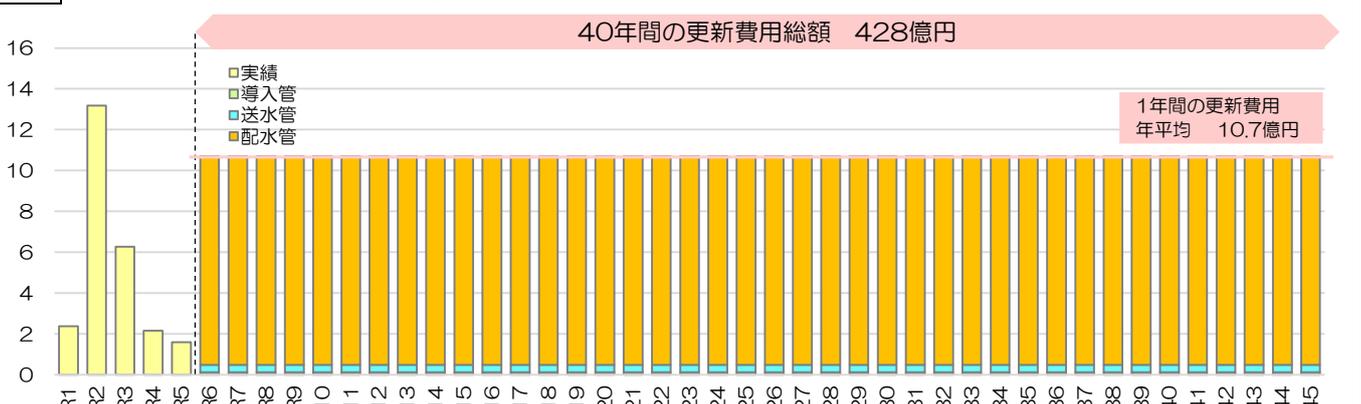
インフラ資産の更新等に係る経費の見込み額は以下の通りです。

（※それぞれの試算条件については本編をご覧ください。）

道路…1 年間の更新費用は約 9.8 億円、40 年間の更新費用総額は約 394 億円

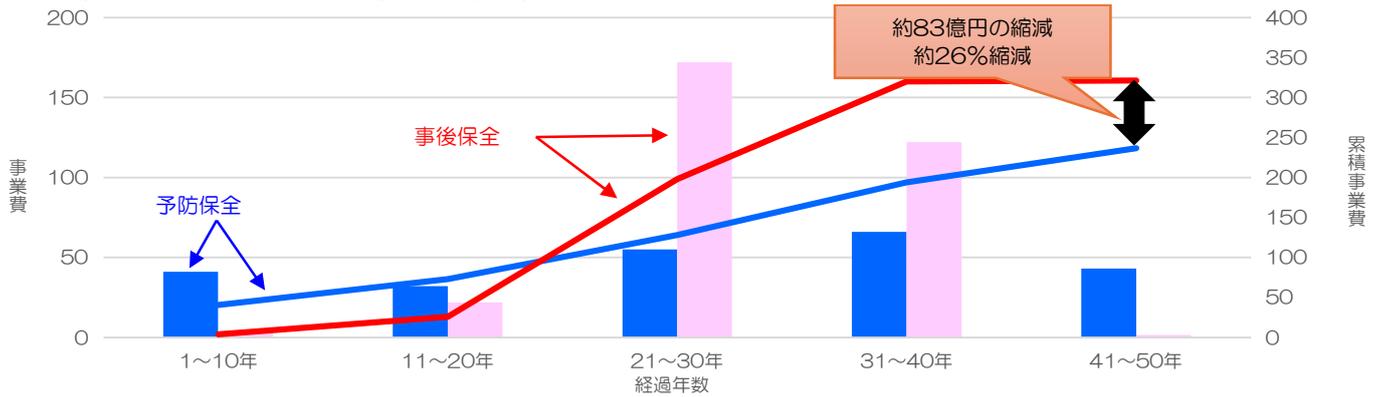


上水道…1 年間の更新費用は約 10.7 億円、40 年間の更新費用総額は約 428 億円



インフラ資産（橋梁）

橋梁長寿命化修繕計画を策定する 385 橋について、今後 50 年の事業費を比較すると、予防保全型は事後保全型に比べ約 26% のコスト縮減が見込まれます。

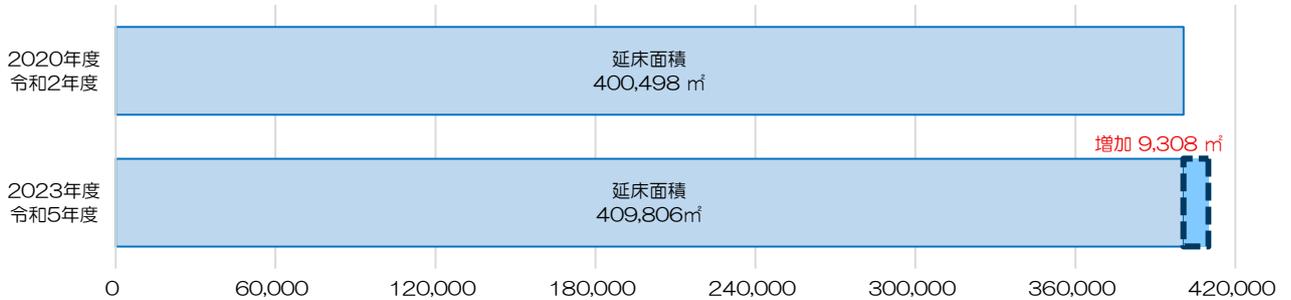


IV. 参考資料

施設整備量の推移

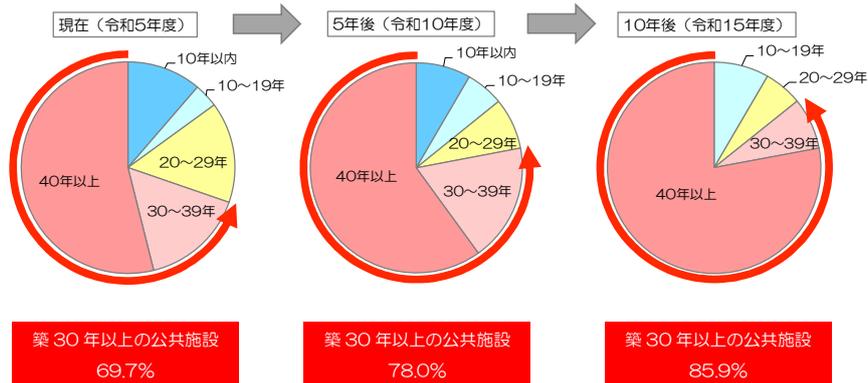
ページNo. 7-3、5、7

令和2年度から令和5年度までの3年間で9,308㎡増加しています。増加の主な要因は、義務教育学校開校によるものです。今後の対策として、未使用となった旧学校教育施設の解体など適正保有量を目指した取り組みが必要です。



公共施設等老朽化の推移

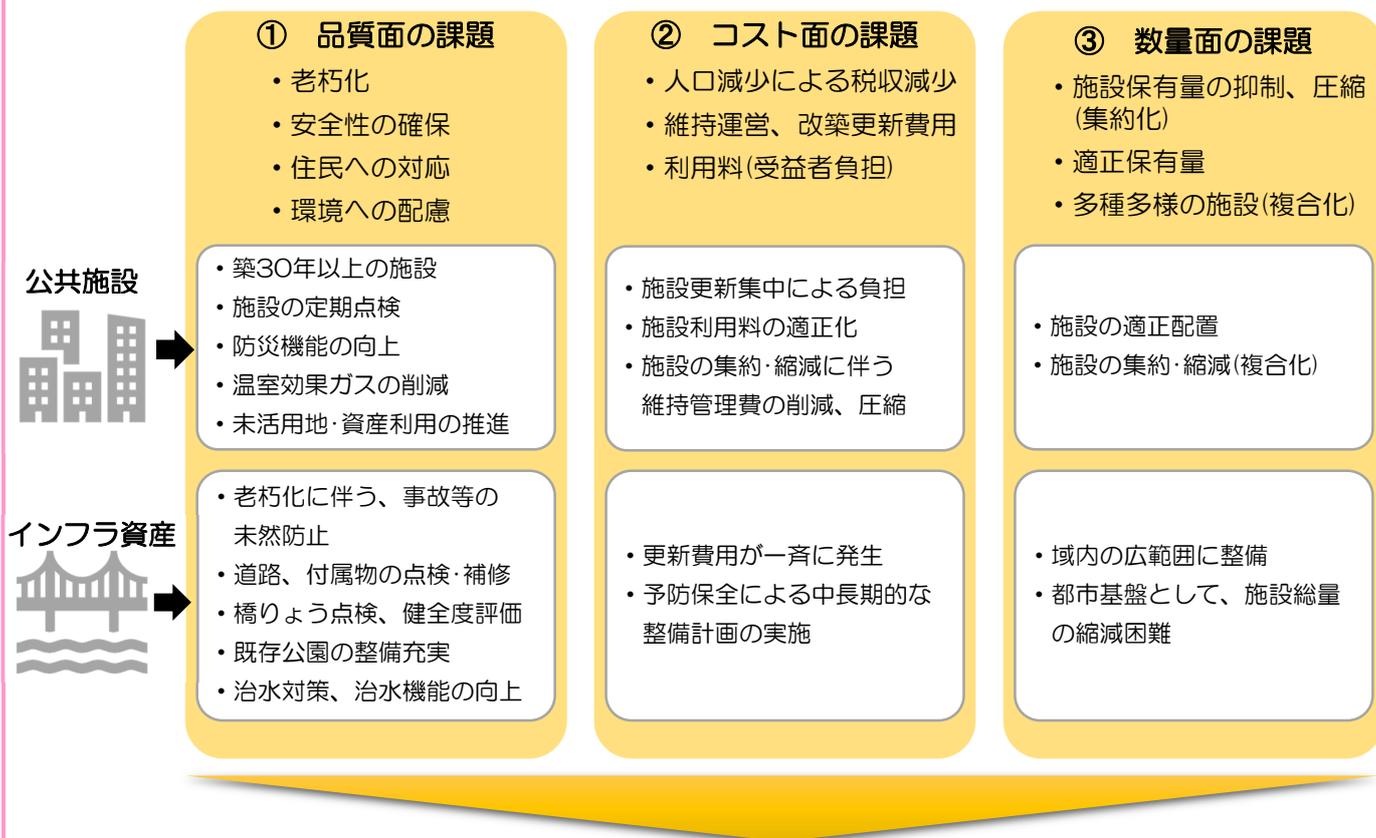
令和5年度の築30年以上の公共施設は69.7%を占めています。現行同様に老朽化が進行した場合、10年後の令和15年度には85.9%になる見込みです。



橋梁長寿命化修繕計画の対象橋梁は全385橋あり、令和6年度時点ですでに建築後50年を経過している橋りょうは約4%を占めています。30年後には93%を占め、急速に橋梁の老朽化が進むことが明らかになっています。



公共施設等の現況把握及び見通しについて検討した結果、公共施設等をとりまく課題は、大きく以下の3つに分けられます。



上記のような課題を踏まえて、これまで公共施設等に関する計画を推進してきました。今後も本方針と合わせて、公共施設等のマネジメントに取り組んでいきます。

施設管理の考え方、基本方針

1. 公共施設の集約・再編と生活利便性の維持の両立
2. 個別施設見直し計画の策定
3. 民間活力の導入
4. 修繕、更新履歴等を蓄積し老朽化対策に活用

総合計画など

1. 豊かな暮らしを支える活力あるまちづくり
2. 誰もが健やかに暮らせる福祉のまちづくり
3. ふるさとに誇りを持てる教育・文化のまちづくり
4. 自然と共生する安全・安心なまちづくり
5. 市民と行政による協働のまちづくり

本市の公共施設の多くは、昭和 40～50 年代に建設されており、これらの公共施設は老朽化が進んでいるため、修繕・更新、統廃合・長寿命化等、適切なタイミングでの対策を計画し、長期継続的な行政サービスを提供できるよう図ります。

インフラ資産については、ライフラインの根幹となるため、老朽化のタイミングを適切に判断し、中長期的な計画に沿った更新整備を図ります。

少子高齢化社会による扶助費等の社会保障費の増加や、人口動向の変化に伴う税収の減少も懸念されます。計画的な基金の積立や、施設の集約化等による施設維持管理費の削減に努め、財源確保と合わせて支出の抑制を図ります。

出典元及び参照資料一覧（一部抜粋：概要版記載分）

- 総務省統計局「国勢調査」 ●福岡県「市町村財政状況の推移」 ●嘉麻市令和 5 年度固定資産台帳 ●嘉麻市橋梁長寿命化計画
- 国立社会保障 人口問題研究所「将来の地域別男女 5 歳階級別人口（2020 年は国勢調査による実績値）」

第 2 次嘉麻市公共施設等適正化基本方針（令和 8 年 4 月策定）

〒820-0292 福岡県嘉麻市岩崎 1180 番地 1 嘉麻市 財政課

TEL：0948-42-7402 FAX：0948-42-7095